



2024 年 9 月 27 日

当別町長 後藤 正洋様

当別子どもの未来を守る会

代表 渡邊 真理

061-3776 当別町太美町1494番地46

寿都町・神恵内村における「文献調査報告書」の説明会について、当別町で
開催するよう原子力環境整備機構（NUMO）に要請することを求める要望

私たちは北海道の豊かな自然環境を守り、子どもたちに核も原発もない社会をつなぐため、多くの仲間とともに活動しています。このような折、2020年に寿都町、神恵内村において、危険な「核のゴミ」の最終処分地区選定に向けた「文献調査」が北海道民から多くの反対の声が上がる中、決行されました。しかし、「核のゴミ」の処分場について受け入れるかどうかは、寿都町・神恵内村だけではなく、北海道全体にかかわる重大な問題であり、決して他人ごとではありません。本年8月1日に寿都町、神恵内村における「文献調査報告書（案）」を経済産業省の特定放射性廃棄物小委員会が承認し、今秋にもNUMOによる報告書の説明会が予定されているとのことです。

「文献調査報告書（案）」は、次の「概要調査地区」の選定を含めてのものであり、なし崩し的に寿都・神恵内が最終処分地になるのではとの強い危機感でいっぱいです。私たちが暮らす当別町においては、子どもも高齢者も、障がいがあっても誰もが幸せに暮らせる魅力的なまちづくりをめざし、さまざまな取り組みがすすめられています。豊かな環境を守り一人ひとりが大切にされるまちを子どもたちにつないでいきたいと願っています。10万年も管理が必要とされる危険な「核のゴミ」処分場の問題は、私たちの日常生活はもちろん、この地域の経済活動にも深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。命と環境に多大な影響を及ぼす「文献調査報告書」については丁寧に説明会が開かれ、また、私たち町民にも十分な意見表明の機会が与えられるべきです。

鈴木直道北海道知事はこの説明会について「寿都町、神恵内村のほか道の14振興局ごとで開催すること、開催を希望する道内の市町村で開催すること」をNUMOに要請しています。

全ての命と環境を守るため、当別町においても「文献調査報告書」説明会を開催するよう、早急に、ぜひとも後藤町長よりNUMOに要請してください。

尚、その要請状況につきましては、10月15日までにご回答いただけますようお願い致します。